

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人の名前の由来とホームの名前の由来がそのまま等事業所の理念になっています。</p>	<p>法人名グッドライフは今まで歩んできた長い人生の中、色々な辛い事や悲しいこと、苦しいことがあったと思います。残された僅かな人生が「ああ、いい人生だった。」と思ってもらえるように。てんとうむしは丸い背中から、星が落ちないようにスタッフ家族、本人が協力して支えて行きましょう。(星はその人の思い、人生、喜び、悲しみ等)という</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員会議や何気ない時にてんとうむしやグッドライフの意味を抜き打ちで聞いたりしている。それらの名前の由来をきちんと理解しないとそれらの名前に込められたケアの意味、すなわち理念を理解できていないことになるため新人もベテランも同じように確認している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族や入居者には入居時に説明している。地域の方からもどうしててんとうむしという名前をつけたの？と聞かれることがある。そのときはきちんと名前の由来すなわち理念を話している。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近所の神社に出かけたり散歩や買い物を日常的に行い近隣のかたとのふれあいを大切にしている。外部の方も農作物を持ってきてくださったりされているが他者も積極的に立ち寄ってもらえるように、ボランティアをたのんだりして少しでも多くの方がホームに来てくださるような機会を作っている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の運動会、夏祭り等積極的に参加している。又、週に一回ゴミ置き場の掃除ボランティアも行っている。踊り等される方からも踊りに来たいんだけど行ってもいいですか？と電話をいただくこともある。又近所の方も新聞紙がいるのなら取りにおいでと声を掛けてくださりこともある。</p>	<p>認知症になっても住み慣れた地域で暮らしていけるんだ。ということこれからもっと増えていく認知症高齢者に対して、又、認知症高齢者を介護している家族に対して、もっとオープンにして、知っていただき安心して老後を迎えられと思えるようなホームを作りたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	関係機関や地域の方々から認知症の相談を受けることもある。又、グループホーム管理者研修等研修生、実習も積極的に受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は理解しているつもりである。アドバイスを受けた事項については改善できる部分はすみやかに改善しサービスの向上に努めている。(葉や洗剤等の保管場所について)又、自己評価はスタッフ全員で取り組みホームの質の向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みや利用者の状況等を報告し、出席者からの質問や意見要望を受け今後のサービスの向上に役立てたいと考えている。地域包括支援センターは、他のグループホームの会議に出席されているため他のホームの取り組みを聞いたりして、委員の方と一緒に取り組んでいる。		委員に対してホームからの報告が多いように感じている。委員からの質問もいただいているがもっと、地域住民との関わりが持てたり委員の方はどんなホームだったら入居してもいいと思っておられるのかを参考にしながらより良いホーム作りをしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは常に報告や相談を行い指導いただき適正な運営とサービスの向上に努めている。連携が困難ということもあるようですが当ホームは開所以前からご指導いただいたり相談にのっていただいたりしておりとても良好な関係を築けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会には随時参加して勉強の機会をもうけており、その研修のなかで権利擁護に関する勉強をしている。制度が必要な人には支援していくつもりであるが現在の所まだ支援を必要としている人はいない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	福祉を実践する職員としての自覚を持ちサービスの提供に努めている。特に高齢者虐待防止関連法の研修は受けていないがいろいろな研修の中でこの関連法についての説明は受けている。又、テレビ等の番組も声を掛け合って見ることもある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>事業所と利用者や家族にはきちんと説明をしている。きちんと説明し質問にもきちんと答えてお互いが納得を得られたからこそ契約が結ばれていると思う。解約するときには契約する時以上によく説明を要し、誤解等のないように気を付けている。また、解約後においても急に関係を断ち切らないように、できる事は手助けしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者から意見や要望があればスタッフの誰でも受け入れる姿勢はある。内容によっては管理者を中心に家族を交えて話し合うこともある。又、利用者とのコミュニケーションが溢れるよう時間を見つけて会話の機会を多く持つようにしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日々の暮らしぶりは写真に撮って掲示したり、個別のアルバムを作り面会時に見ていただいている。特に遠方からのご家族はアルバムを見られ感激される方もおられます。健康状態や異常等については面会時やその時の状況に応じてきちんと報告をしています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時はいつもお茶を出すようにしている。管理者は勿論、他スタッフにおいても家族との関係は良好であり、何か要望はないですか？何か気づいたことはないですか？と声かけをしている。ホームでは要望も小さな苦情として受け止めており、スタッフからもご家族との会話の内容も上がってきます。</p>	<p>家族はホームに対してなかなか意見を言い出せない事は理解しています。普段から良好なコミュニケーションが図られていても本音というのは全てに家族から聞けるわけではないので、今後も家族とのコミュニケーションをとる中で、その言葉の裏に隠された心を読み取れるように心がけていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回職員会議を行っており、運営者や管理者からの伝達や注意事項等の報告のほかスタッフからの意見や要望も必ず聞いている。それらは、その場で皆で検討し、改善すべきものはその場で改善するようにしている。又、発言は新人から聞くようにして出席者全員が意見を言えるようにしている。</p>	<p>良いホームは良いスタッフで決まると考えています。今後もいろいろな問題に対して上から～しなさい。ではなくてスタッフの意見を良く聞いてスタッフ全員で検討し、スタッフが働きやすい職場にしていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>運営者と管理者は緊急時や特別な場合にいつでも動けるような体制をとっている。夜間の緊急時においても夜勤者が対応に困らないようにいつでも連絡が取れるようにしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>正式なシフトでの勤務に入る前に必ずスタッフに同行させ、知らない人が一人でホーム内を行き来することがないようにしている。又、入居者に対してもきちんと紹介している。家族に対しても退職の日と新人が入職することをきちんと報告している。</p>	<p>せっかく入職してスタッフが少しでも長く勤められるように、勤務を組むにあたって希望を聞いて勤務表を作っている。他にもスタッフが働きやすいように(無理のないように)シフトを組んで対応しているものの、どうしても本人の希望で退職を希望される方がいる場合は、新しく入職するスタッフを必ず他のスタッフに付けて仕事を覚えてもらってから、通常勤務に入れるように継続していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や郡、市が主催する研修会には随時参加している。研修内容に応じて出席するスタッフを選んだりし、職員会議において研修報告をしている。当法人は1ユニットであるため気づきが少なくなる恐れがあるため他のホームに全員が出向き研修させていただいたこともある。	今後も研修へは積極的に参加して勉強の機会を作っていきたい。他のGHのスタッフと関わることによってホームの良さや、改善すべき点への気づきにもなるし又、勉強したことがすぐに役に立たなくても何かのときに、きっとホームにとって本人にとって役立つ時が来ると思います。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や始良郡のGH協会に入っている。その研修ではグループに分かれての討議もあり事業所外の方とも交流が図れている。又、電話や直接出向き、色々な面で相談をしアドバイスをもらったりしており仲良くさせていただいている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者や管理者はスタッフの状態の変化に注意しているつもりであるがなかなか十分な配慮ができないこともあるがスタッフから信頼を得ているスタッフから情報を得たりしながらできることは手助けしたり労いの言葉をかけたりしている。スタッフから親睦会の要請はないが以前は小遣いを渡したりしていた。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者と管理者は毎日ホームに来ており入居者やスタッフ、スタッフを取り巻く状況も把握している。スタッフの事情に合わせた勤務の体制や仕事に追まられるローテーションは組まずスタッフ自身が考え行動できるように努めている。又、余暇を利用して勉強できるように本も用意している。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用申し込みがあると本人のいる場所まで出向き面接を行う。何回か面接した後ホームに来れる方には来ていただき安心感を持っていただけるように配慮している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が直接申し込みにこられるときもあるし、ケアマネを通じて申し込みされる場合もある。そのような場合でも家族の連絡先を可能な限り聞き直接話しを聞くようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームでの受け入れが早急にできないときには、他のホームに連絡して受け入れ状況を聞いたりしており、満床です。と その場でお断りすることはありません。		てんとうむしに入りたいと希望されて相談される方は別ですが、殆どの方が早急に入居できる場所を探しておられるのが現実です。情報をホームの中に留めるのではなく、その人や家族が少しでも早く安心できるように手助けしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームに来ていただいて馴染みの関係ができるように努めている。又、入居後においても環境に慣れるまでは、面会の回数を多くしていただけるようお願いしたりし、家族との交流を断絶しないようにはたらかせています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症のレベルによっては本人の能力を生かしながらホームの中だけでなく、外部の方にも特技を披露してもらったり、スタッフ(特に若いスタッフ)に対しては人生観を話してもらったりして、私にまかせなさい。という気持ちが持てるようにしている。実際介護する方、される方という感覚はスタッフは余り持っておらず、同一立場の様である。		ホーム内の生活において、本人に何ができて何ができないかを良く知っているにはスタッフだと思います。そのことをしていただくことによってその人が役割意識を持つことによって精神的にも向上していけるように互いに助け合って行きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に勝る関係は無いと考える。状況によっては家族の協力を得ないと困難なこともあり、特に骨折後の通院リハビリ等は週に何回も連れて行ってくださったりしその結果、少しずつ移乗動作が出来てくるように共に喜びあったり、双方でリハビリの最終目的を決めたりして、協力し合える関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には自分の部屋でゆっくり会っていただいたり、親子で近所へ散歩に行かれる方もあったり、ドライブや自宅、食事に出かける方もあります。ホームに面会時間の設定はせず、来れる時は自由に常識の範囲内で来て頂いている。中には、面会時間よりもスタッフとの会話時間の方が長い方もある。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	保証人の同伴及び同意があれば外出もできる。面会に関しても制約はなく家族以外の面会者に対しても、いつでもおいでくださるよう声掛けをしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の性格や認知症の状態によって、個別にじっくり話をしたり、相性の良し悪しで席の場所を考えたりして、トラブルをなるべく回避し皆が楽しく若しくは穏やかに生活できるように配慮している。又、入居者同士が話しているときにはなるべく見守ることで関わりを中断しないようにしている。		入居者同士が不自由ながらも助け合っている姿はとてもほほえましいものです。今後もそっと見守りたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後においても入院先の病院に面会に行ったり、そのついでに洗濯物を自宅に届けたりすることもある。亡くなられた後も時々遊びに行ったり、又、ご家族もお茶菓子を差し入れに来てくださったりの関係が今でも続いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々によって思いが違ふことはスタッフも理解している。特に軽度の記憶障害も方は、頻繁に思いを伝えて来られます。特に家族に電話してくれ。との要求に対しては、家族との兼ね合いもありすぐに応じられない場合もありますが、ご家族に対して、本人の気持ちを理解して外出や面会の回数を増やしたりしてくださるようお願いをしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接できちんと聞くようにしている。特に問題行動の発生は以前の習慣が影響されるためそれに対するケアの方法も違って来る事などを説明し理解を得ながら収集している。一度で把握できないときは、面会のときに少しずつ聞いたりしながら状況に合わせている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	担当者会議やミーティングの時、気づいたことを話すことで、その人の行動のパターンやスピード等スタッフ全員が共通事項として把握している。その日の行動パターンでより注意を要する時等も把握できている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望や要望を聞く。担当者会議等においては本人の状況について話し合い希望や要望に沿ったケアができるように担当者がプランにまとめあげている。本人や家族との関係がスタッフを含め良好であるため双方とも意見が言える状況である。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護保険の更新にあわせて介護計画を立てている。その間3ヶ月に一回のモニタリングを行い、状況が変わればその状況に応じたプランを立て直している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常と変わったことがあるときには記録をするとともに、その状態にあったケアを行っている。特に歩行状態の改善がみられる時には担当者会議において話し合い計画の見直しを随時行っている。		骨折の手術を済まされて帰って来られた方は少しずつ歩行能力が向上してくることもあるため、安定を得られるための工夫や歩行能力の状態を伝達し全スタッフが同じようなレベルのケアができるようにしている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	19年7月で開所3年になり通所介護や短期入所等のサービスが開始できるが現在の所まだその条件に達しないため実施していないが今後はホームを利用しての通所介護を予定している。その他介護用品等はなるべく安く買えるように便宜を図っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在まで本人からの相談により地域資源の活用を要するようなことはないが地域の住民やボランティア等外部の方を招待してグループホームを知ってもらおう努力はしているつもりである。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居後どうしても他入居者と折り合いが悪く自宅に帰られた方がいおられたがその際は担当ケアマネに報告する等している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在まで本人からの相談により地域資源の活用を要するようなことはないが地域の住民やボランティア等外部の方を招待してグループホームを知ってもらおう努力はしているつもりである。又、運営推進会議への参加もしてもらい関係の強化や、アドバイスが貰えるように協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれにかかりつけ医があり、定期的な往診若しくは、通院をしている。通院は原則として家族対応であるが、困難な時や緊急な時はホームで対応している。		車椅子の方を家族やスタッフが病院に連れて行くのはとても大変なことです。それぞれのかかりつけ医が定期的に往診に来てくださることで、病院では忙しくてなかなか聞けないようなことでも質問ができ、きちんと指導して下さっているの、今後も適切な医療を受けられるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>殆どの方が一ヶ月位の入院でホームに戻ってこられます。その一ヶ月の間に身体的にも精神的にも大きくレベルが低下しそのレベルの回復にはそれ以上の期間を要する事が殆どです。その悪化のリスクを最小限に止められるように今後も家族や医療関係者と早期退院に向けて話し合えるようにしていきたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議やその他スタッフの休憩時間や雑談の時等、時々個人情報の保護や、本人を傷付けないような声掛けやケアの方法について指導している。個人の記録についてもその方の家族に対しては来訪時には見てください。と話している。他の方の者は絶対に見せることはない。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その方の状態に合わせて、声掛けを行ったり、説明をしている。うまく自分で説明できないかたに対してはこちらから質問を投げかけて返事が返ってくるようにしたりしてなるべく本人の意思を尊重するようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の一日の流れは決まっているがその中でもするかしないか、行くか行かないか、等本人の希望を聞いている。外に出たい方に対しては、買い物や散歩など声をかけて一緒に出かけたりしてその人の思いがかなうようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみに関しては、その季節にあったものをダンスに入れておくことで自由に選べるようにしてある。人によっては外出時や特別などき自分から化粧をしたりされる方もある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	山菜の下ごしらえや皮むきを一緒にしたりし、食材に使っている。食べる時も「これは皆でむいた・・・ですよ」と声をかけてその時の状況を思い出してもらうことによって食が進むようにしている。片付けも他の方の迷惑にならない範囲で自由にさせていただいている。	本人の残存機能に合わせて食材の皮むきや下ごしらえ、味見等していただいているので今後も継続していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	朝の牛乳を飲む方もあるし、夜養命酒を飲まれる方もあります。面会時にオヤツや飲み物の差し入れがある場合は管理の難しい方に関してはホームで一旦預かり希望日時や様子を見て差し上げるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄介助の時間は概ね決まっているが、本人の希望するときや臭いのあるときには随時交換もしくは誘導をしている。		薬にたよって排泄していた人でも状態に合わせて薬の調整をしたり、牛乳や繊維質の多い食材を使ったりして薬がなくても良い便が出ている方が何人もおられます。きちんとトイレに誘導することで、排便の感覚が戻ってきているのではないかと思います。今後も継続してなるべく薬に頼らないで排便ができるようにしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏場をはさんでの半年は毎日、冬場をはさんでの半年は一日おきの入浴を行っている。時間は、昼食後しばらく休憩をしてから実施しているがその範囲の中で、入浴するかしないか、今入るか後で入るかを聞いている。一人ひとり入浴することでその人のリズムでの入浴ができており今まで不満も聞かれていない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はなるべく起きて過ごせるようにレクに参加してもらったり、家事や園芸活動に参加してもらったりしているが強制的に押し付けることはせず、本人の意思を尊重している。眠れない時はコタツに入ってテレビをみたり暖かい飲み物をのんでもらったりして自然と眠くなるのを待つようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	何も出来ないという方でも何かができます。例えばつわの皮むきが上手な方には、周辺が散れてもそのまましておき後で片付けたりしてその人が集中して楽しめるように見守っています。弁の立つ人には若いスタッフへの人生観を話してもらったりして張り合いが持てるように支援しています。		ホームの中ではいつもゆっくりと穏やかな時間が流れているため刺激が少ない事もあると思います。その中でも入居者同士の会話の中から軍歌や唱歌の歌が出て、ミニコンサートのような感じになることがあります。そのような場が少しでも多くなるように会話を持っていったりしながら入居者の楽しみになれるようにしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額持っておられるかたもありますが自分で買い物をして支払うことは殆どありません。人が買い物をするのを見ると自分も欲しくなります。お金があるなしに関わらず品物を手にされるので、そのような時はホームが支払って皆で食べるようにしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望やお天気によって随時外に出ています。また毎日の散歩を日課にされている方もあります。家族が毎週連れ出されるところもあります。暖かい日は外でお茶を飲んだり食事をしたりして外の空気に触れられるようにしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホームが特別な場所へお連れすることはありません。外出に関しては家族が対応されています。温泉に行かれる方、自宅に帰られる方、外食に行かれる方、心のよりどころになっている宗教施設に行かれる方等いらっしゃいます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分から電話をしてくれと希望される方はあまりいらっしゃいませんが日ごろから、いつでも電話してください。と話しています。電話を下さるところはよくかかってき、本人とも話をされています。面会が多いため特別に電話で話をされることは少ないようです。		「あまりホームに電話したら迷惑じゃないですか？」といわれる方がありますが、「いつでもして下さい。」と言っている。もっと家族から本人に電話がかかってくるように声掛けしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お客様に接するような特別な接待はしていません。ゆっくり話ができるように自室にお連れしたりしてホームやスタッフ二対して気を使わないようにしています。面会時間も設定しておらずいつでも来れるようにしています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全てのスタッフはきちんと理解し危険な行動に関して観察とそれに関する対応の方法を会議で検討し対処してきている。しかし、転倒による骨折が続いている現実がある。骨折、入院による問題が改善するまでは相当の期間を要し本人が一番大変であることから、状況によっては家族の同意を得て拘束をしているが、本人の精神的負担にならないように気をつ		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	注意を要する対象者はきちんと把握されている。来訪者も「こんにちは」と上がって来られる状況にあります。玄関に人が来るとチャイムが鳴るようにしてあるため特に鍵をかけなくても大丈夫である。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフはフロアで書き物をしたり休憩をしたりしています。スタッフの休憩時間も一時間後とに時間をずらすことによって、常に誰かが見守りができるような体制をとっています。夜間も巡視時間を決め状況によっては随時見回りをして対応しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物は開所当時から保管場所は決めてある。洗剤の保管場所について前回の害日評価時に指摘があり棚に保管するようにしました。日常よく使う洗剤は誤って入居者が口に入れてしまっても大丈夫な物に変えました。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	予想される危険を未然に防ぐため転倒の恐れのある方には手すりを、誤嚥のおそれのある方には食堂の椅子の場所をスタッフの隣で異常が発見しやすいように等、その方の状態に合わせてケアしている。		対応マニュアルが作成してあります。どのような場面にあっても慌てず落ち着いてマニュアルに沿って対応していけるように今後も勉強していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを作成しいつでも見れるようにしている。又、本人の陥りやすい急変を予測してこういう状態のときはこのようにして下さい。とその都度教えている。消防署の協力を得ての心肺蘇生方の研修も行ったことがある。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	一年に一回は消防署の協力を得て避難訓練、消火器を使用する消火訓練、通報訓練を行い自主的には夜間を想定した通報訓練と避難誘導の訓練を行っている。又、緊急時の非難においては近所の方の協力体制も整っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	身体的変化、ADLの低下にともなって問題行動の内容も変わってくるので家族に対してきちんと説明をしている。又、それにとまらぬリスクについてもきちんと説明している。入居時においても本人の意思を尊重する生活を送る上でどうしようもない危険もともなってくることやホームとしてはできる限り拘束をしない方針を説明している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルの測定を行っており変化について把握している。申し送りにおいてもきちんと申し送られ対応がなされている。状況によってはかかりつけ医に連絡し指示をもらっている。普段から異常があれば管理者に報告するようになっており管理者を中心にケアする体制になっている。		早期発見することで早期に対応することが自分で不調を訴えることができない方には大切なことです。今後も一人ひとりの状況をきちんと把握し、対応できるように継続していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をもってきておりいつでも薬の説明をみることができるよう個人用のカルテに綴っています。特に臨時でもらった薬についてはきちんと申し送りに記載し状態の変化と確実に服用されるように注意している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便ができるように毎朝牛乳を飲んでもらったり、芋類のように繊維質の多い食材を使用したりしている。処方された下剤も状況を見て調整したりしてなるべく薬にたよらないようにしています。実際下剤を中止しとても良い便がみられている方もあります。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後義歯の洗浄、イソジンでのうがい、を行っている。自分で磨ける方もスタッフが時々確認し磨き残しのないようにしている。		口腔から色々な菌が入ってきて病気を引き起こすため今後も継続して口腔の清潔に注意していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容は業務日誌に朝、昼、夕おやつも含めて記載している。摂取量は個別のカルテにきちんと記入している。定期的に栄養士からのアドバイスがもらえる様に現在検討中である。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成していつでも見れるようにしている。又、19年より感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会をつくり感染症に注意している。インフルエンザや肺炎球菌ワクチンの接種も本人と家族の同意のうえスタッフもあわせて行っている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は肉、魚、一般用と使い分けている。ふきんやまな板も漂白したり食器は必ず乾燥機にかけて使っている。食材はすぐに冷凍保存し使う分のみ出している。又、調理担当者は石鹸で手洗いた後消毒液を使ってもう一度消毒してから調理するようにしています。	今まで食中毒の発生は起きていないものの、ちょっとした不注意から食中毒は発生します。体力の弱った高齢者にとっては命取りであることは理解しているので今後も継続して衛生管理に注意していきたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>			
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	敷地内には季節の花が咲いたり果物が生ったりしています。面会者が一緒に庭のベンチに座り花をながめて雑談されたり、家族でもスムーズに出入りできるようにスロープを付けたりしています。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設ではなく日々の家庭生活の匂いがしています。環境的にも恵まれており小鳥が飛んできたり田んぼの移り変わりを見たりされています。特別なことは設備としてはありませんが面会者や入居者から落ち着くと言って下さっています。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂でテレビを見たり、こたつでうたた寝をしたり、自分の部屋で歌を聞いたり、日向ぼっこをしたりそれぞれ思い思いに過ごされています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自分の使い慣れた物をもってきてくださるようお願いしている。写真を貼っておられるところもあります。カーペットを持ってきているところもあります。入居時には空の状態でお貸ししているため全て持ち込みです。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冬場でも暖かい日は窓を開け換気をします。ホーム内には空気清浄機を設置しにおいがこもらない様にしてあります。温度調節は入居者の状況とその日の天気、気温を考慮しながら温度、時間を調節しています。		とても良い環境に立地しているため気候の良いときは、窓を開け空気のおよみのないさわやかな空気のホームでありたい。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	独歩可能な方には室内用ですりを特別に付けたり入浴時に使用するシャワーチェアは身体機能にあわせて使い分けできるように準備してある。ホーム内のわずかな段差はスロープを付けて車椅子の方でも自由に行けるように配慮してあります。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	今まで何でもないことが急に何かの混乱や幻視等の異常が現れたときは様子をよく観察しその原因を取り除くようにするとともに、すぐに手出しせず、どのような行動及び発言があるか本人の考えを引き出せるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花や野菜を植えてもらったり草を抜いてもらったりできるようにしている。季節によっては涼んだり日向ぼっこをしたりできるスペースがあり活用している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

てんとうむしは、のどかで季節の移ろいを感じれる場所にあります。母体が有限会社ということもありいろいろな病院の先生が往診に来て下さっています。経営者も毎日ホームに出向き入居者やスタッフと交流を持っているため状況を把握できていることや、スタッフに混じり夜勤をすることで業務やケアの方法、問題点等スタッフと同じ目線で考えることができます。改善すべき点は早急に改善し入居者へのケアが少しでも向上できるように心がけています。ホームは特別な事は何もしていません。入居されている方は特別な事を望んでいるわけではなく毎日安心した生活を望んでおられます。ホームができる範囲のなかで一生懸命ケアすることが一番大切だと考えています。ホームは特に宣伝はしていませんが、地域の方から支持を得ているようで行政からも良い評価をいただいております。これはご家族や面会に来られた方々が宣伝して下さいました結果だと思っております。「良いホームは良いスタッフで決まる」考えています。面接の時はホームにあった人材を採用してきちんと教育をし入居者や家族が安心して預けてくださるように頑張っていきたいと思っております。